

教団新報

定価 1部220円(本体200円+共283円)
 予約購読料 1年分 千円 3,962円
 紙代のみ 3,080円
 振替 00140-9-145275
 本紙を購読ご希望の方は、前金を
 そえて、お近くのキリスト教書店
 へお申し込み下さい。
 教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
 169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
 FAX03(3207)3918
 URL http://uccj.org
 発行人 網中彰子
 編集主筆 嶋田恵悟
 印刷所 株式会社きかんし



勝田教会 (関東教区)

ペンテコステ メッセージ

枯れ果てた骨

エゼキエル書37章1〜14節



鈴木 光

枯れ果てた骨

その谷は骨でいっぱい
 でした。見渡す限りの骨、
 骨、骨…。
 主にうながされて、エ
 ゼキエルはまわりを行き
 巡ります。そしてもう一
 つのことに気づきまし
 た。その谷いっぱい骨
 はどれも「甚だしく枯れ
 ていた」のです。そこに

は命を感じさせるものは
 なく、あるのはただ死の
 気配だけ。
 なんとも悲しく、虚
 しい風景でしょうか。

主は「これらの骨はイ
 スラエルの全家である」と
 言います。国が減びよ
 うとしており、神殿は
 見る影もなく破壊され、

人々は故郷から引き離さ
 れ捕囚となつています。
 彼らは言います。「我々
 の骨は枯れた。我々の望
 みはうせ、我々は滅びる」と。
 …正直に告白をする
 と、この箇所を読んで最
 初に連想したのは、私自

身の姿であり、私たち「教
 会」の姿でした。
 私たちは枯れ果てた。
 望みは持てない。ただ、
 しぼんでいき、滅びてい
 くのを待つばかりなので
 はないか、と感じていた
 からです。
 コロナ禍を経て、多

くの変化がありました。
 やっと集まれるように
 なったね、と再会を喜ん
 だのも束の間、閉じ込め
 られていた期間のダメージ
 が大きいので、しょう
 か、高齢だった多くの聖
 徒たちはぐっと弱ってし
 まったように見えます。

一方で地元を離れ、都
 会に出ていく若者たち
 も、コロナ禍の最中は
 かえってオンラインでつ
 ながりを持てていました
 が、今はなかなか様子も
 分かりません。信仰生活
 は生き返ることができ
 るでしょうか？

この問いかけは「とて
 も無理に見えらるうう」と
 と念を押しているように
 も聞こえます。
 エゼキエルの答えは冷
 静で、空気の希望を迷
 べるのでも、絶望を嘆く
 のでもありませんでし
 た。

骨に向かって言え

先の見えない現実を前
 にして、しかし、主はエ
 ゼキエルに命じます。
 「これらの骨に向かっ
 て預言し、彼らに言いな
 さい」

その預言の内容は、主
 が骨の上に筋(すじ)を
 おき、肉を付け、皮膚で
 覆い、霊を吹き込むとい

うものでした。エゼキエ
 ルは素直にそれに従いま
 す。すると、その預言を
 しているさなかに、骨は
 音を立てて動き始め、筋
 と、肉と、皮膚がそこに
 次々と重なっていったの
 です。

「骨に向かって預言」
 するのは、いかにも変な
 話です。無駄で、意味の
 ないことのように思いま
 す。しかし、エゼキエル
 は従順でした。命じられ
 たことに従いました。そ
 して、主はご自身と与え
 た言葉とおりのことを、
 言葉とおりに行われたの
 です。

注目したいのは、骨を
 動かすのも、筋や肉や皮
 膚をつけるのも、すべて
 だとして、それもまた主
 がなさることです。
 たとえ生き返りそうも
 ない骨が生き返るのも主
 がなさることです。

では、私たちはどうす
 るべきでしょうか。エゼ
 キエルの姿に倣うならば
 答えは明白です。私たち
 は私たちに命じられたこ
 とを誠実に、忠実に、従
 順に行うだけです。
 誠実、忠実、従順…。

エゼキエルがそうした
 ように、私たちも御言葉
 を聞き、語り、また行う
 のです。その飽きなき繰
 り返しのさなかに、主は
 不思議なやり方で命を与
 えてくださるのです。
 求められています。

霊に向かって言え

続けて主はエゼキエル
 に命じます。
 「霊に預言せよ」

主の霊である聖霊に向
 かって預言するとは、何
 だか矛盾しているように
 も、不遜なようにも感じ
 ます。
 「霊よ、四方から吹き

来たれ」などと偉そうに
 言うなんて、本当に大丈
 夫なんでしょうか。

私たちは聖霊を自由に
 操るコントロールを与
 えられるわけではありま
 せん。しかし「霊よ、四
 方から吹き来たれ」と言
 えと命じられたのなら、
 素直にそうすればよいだ
 りませんか？

「霊よ、あなたに聖
 霊を吹き込まれ、」彼ら
 は生き返って自分の足で
 立ったのです。
 私たちは聖霊を自由に
 操るコントロールを与
 えられませんが、私たち
 が「霊よ、四方から吹
 き来たれ」と言えと命
 じられたのなら、素直に
 そうすればよいですか？

そのとき、主はわたしに言われた。「人の子よ、これらの骨は生き返ることができるか。」わたしは答えた。「主なる神よ、あなたのみがご存じです。」そこで、主はわたしに言われた。「これらの骨に向かって預言し、彼らに言いなさい。枯れた骨よ、主の言葉を聞け。これらの骨に向かって、主なる神はこう言われる。見よ、わたしはお前たちの中に霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る。わたしは、お前たちの上に筋をおき、肉を付け、皮膚で覆い、霊を吹き込む。すると、お前たちは生き返る。そして、お前たちはわたしが主であることを知るようになる。」わたしは命じられたように預言した。わたしが預言していると、音がした。見よ、カタカタと音を立てて、骨と骨とが近づいた。わたしが見ていると、見よ、それらの骨の上に筋と肉が生じ、皮膚がその上をすっかり覆った。しかし、その中に霊はなかった。主はわたしに言われた。「霊に預言せよ。人の子よ、預言して霊に言いなさい。主なる神はこう言われる。霊よ、四方から吹き来れ。霊よ、これらの殺されたものの上に吹きつけよ。そうすれば彼らは生き返る。」わたしは命じられたように預言した。すると、霊が彼らの中に入り、彼らは生き返って自分の足で立った。彼らは非常に大きな集団となった。

(エゼキエル書37・3〜10)

「霊よ、四方から吹き
 来たれ」などと偉そうに
 言うなんて、本当に大丈
 夫なんでしょうか。

私たちは聖霊を自由に
 操るコントロールを与
 えられませんが、私たち
 が「霊よ、四方から吹
 き来たれ」と言えと命
 じられたのなら、素直に
 そうすればよいですか？

「霊よ、あなたに聖
 霊を吹き込まれ、」彼ら
 は生き返って自分の足で
 立ったのです。
 私たちは聖霊を自由に
 操るコントロールを与
 えられませんが、私たち
 が「霊よ、四方から吹
 き来たれ」と言えと命
 じられたのなら、素直に
 そうすればよいですか？

「霊よ、あなたに聖
 霊を吹き込まれ、」彼ら
 は生き返って自分の足で
 立ったのです。
 私たちは聖霊を自由に
 操るコントロールを与
 えられませんが、私たち
 が「霊よ、四方から吹
 き来たれ」と言えと命
 じられたのなら、素直に
 そうすればよいですか？

「霊よ、あなたに聖
 霊を吹き込まれ、」彼ら
 は生き返って自分の足で
 立ったのです。
 私たちは聖霊を自由に
 操るコントロールを与
 えられませんが、私たち
 が「霊よ、四方から吹
 き来たれ」と言えと命
 じられたのなら、素直に
 そうすればよいですか？

2024年 春季・補教師試験問題

教憲教規および諸規則・宗教法人法 (60分)

次の2題について答えてください。

1. 教憲・教規が定める教団の所属教会について、具体的な条文を挙げて述べてください。
2. 宗教法人上の教会規則と、教会法としての教会規則には、どのような違いがあるのか、関連する条文を示しながら述べてください。

旧約聖書神学 (60分)

次の2題に答えてください。

1. 十戒の安息日規定について、出エジプト記と申命記から自由に論じてください。
2. 神の名について、出エジプト記第3章14節を中心に論じてください。

新約聖書神学 (60分)

次の2題を、いくつかの聖書箇所を挙げつつ、神学的に論じてください。

1. 共観福音書における「受難と復活」について
2. パウロ書簡における「神の義」について

2024年

春季教師検定試験

補教師34名、正教師13名が受験

2月20日より22日の三日間、雨にけふる東京、西早稲田の日本キリスト教会館・早稲田奉仕園で、春季教師検定試験が行われた。期間中は天候が猫の目のように変わり、5月の陽気の翌日には冬に逆戻りと軽装の委員が慌てて防寒具を買いに走るヒトコマもあった。

教師検定試験は年2回、春と秋に行われるが、春季教師検定試験の場合、3月に神学校を卒業予定の補教師受験者が多いのが特徴と言えよう。これらの派遣をひかえた者たちを覚えて、開会礼拝では、ルカによる福音書10章1節以下から「72

人を派遣する」の説き明かしがなされた。これは補教師検定試験の新約聖書教義と説教の出題箇所でもあった。「収穫は多いが、働き手は少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるよう、収穫の主に願いなさい」との招きに応じて起こされる者を見出すべく、教師検定委員も祈りをもって三日間の試験に臨んだ。

一日目は、午前午後と筆記試験が行われ、「教憲教規および宗教法人法」「旧約聖書神学」「新約聖書神学」「教会史・教理史」「一般・日本宗教学史」「宗教教育」「旧約歴史」「組織神学」「ギ

リシア語初歩」が課された。これらはそれぞれコース別に受験するものであり、同じ時間に同じ会場で行われるが、受験科目が異なるため、教師検定委員がほぼ総出で問題用紙配布、答案回収にあたった。

受験者は補教師34名、正教師13名の合計47名であった。前年度の春季教師検定試験受験者は、補教師29名、正教師2名の合計31名であった。単純に数字を比較すると全体で16名の増加となるが、内実は補教師受験者の場

合、Cコース継続受験者が一定数おり、神学校卒業者は少ない。正教師受験者は前年度秋季教師検定試験からの再受験者が多く、全体の合計を押し上げており、残念ながらいまだ受験者の減少傾向が収まったとは言いがたい。あしかけ4年におよぶ「教会のコロナ捕囚」とまで言われた事態は生きた教会の姿にふれることを困難にし、伝道献身者を生み出しにくい状況を現出させた。教区を見渡しても無牧・兼牧の教会・伝道所が増えお

り、伝道の働きのために献身者が起こされることを願ってやまない。

二日目、三日目は全体会がまず行われ、清藤淳委員長から総評が行われた後、受験者の個別面接となった。いわゆる人物検査であるが、教師検定試験の場合、単なる筆記試験や、提出試験の評価に留まらず、主から受けた召しを共に確認する意味合いが大きい。とくに教憲教規の志向する教会理解や信仰の筋道に立った思考法が身についているか、教会での実務経験が乏しい補教師受験者のために、限られた時間のなかであるが丁寧に聞き合うことを心がけた。同労者となる方々が、生涯を主に仕える伝道者として歩むために、主が受験者のうちに始めておられる御業を見極めようと委員一同、心を傾けた。

三日間の春季教師検定試験を終えて思わされたのは、伝道者の派遣は神の召しによるものであり、人間の使命感や、働きに還元されて終わるものではないことがどこまで理解されているかであった。主が伝道の働きを収穫に例えられたのは、それが終わりの日の完成に関わるからであり、教会の働きはすべて、「主の再び来たりたまふを待ち望む」ことに収束する。この再臨の信仰なしには伝道者の実存は支えられないことを付言しておきたい。

（横山良樹報）

受験者の減少傾向がある時代にあっても

講評

教師検定試験に繰り返し立ち会いながら、どんな時代にあっても伝道献身者をおこしてくださる神さまの御業を覚える。また教師を志す者たちの真摯な姿勢を目の当たりに委員一同悔い改めを深くする試験である。

面接を通して開会礼拝で伝えられたメッセージをよく受け止めつつ面接に臨む受験者が多かった。語られる言葉を通して面接への道を整えられたことを知る。そのように言葉に聞く姿勢がある一方で、提出試験として課せられた説教をめぐっては受験者の知識、経験、思いを述べるのが中心になり、聖書そのものから聞き取る姿勢が乏しいものが少なくなかった。

神さまが礼拝に集う会衆にみ言葉を通して福音を告げておられる。その出来事を前に、悔い改め、信頼し仕える教師とされることを祈りたい。

第42総会期 教師検定委員長
清藤 淳

常議員会

第42総会期第10回臨時

春季検定試験の合格者を承認

3月22日、第10回臨時常議員会がオンラインで、常議員23名が出席して行われた。2024年春季教師検定試験合格者

を承認した。

清藤淳教師検定委員長は、「補教師試験受験者34名中、合格者26名、不合格者3名、Cコースでの継続者5名。正教師受験者13名中、合格者7名、不合格者6名」と報告した。試験を振り返り、「春季は補教師が中心の試験となるが、正教師が中心の秋季試験の不合格者も数多く合格した」と述べた。また教区の中には、志願者の推薦文を皆同じ形式で出してくる教区があり、教区が個々の志願者をどのように受け止めたのかはつきりとしれないものがあることを告げ、改善を求めた。



七尾教会・幼稚園、被害の一部

輪島教会、亀裂で空が見えている

支援物資を北陸学院大学へ運び入れ

能登半島地震報告《教団役員訪問》

伝道を再建する課題を示されて

お話を聞きしました。それぞれの地域は甚大な被害がありました。前回の能登半島地震後に会堂を建て替えたため、いずれの会堂も大きな被害はなかったとのことでした。しかし、羽咋教会の関係幼稚園は園舎が使用不可能になるなど、報道で取り上げられる地域だけでなく、能登半島の様々な地域が被害を受けていることを実感しました。

二日目は、まず七尾教会を訪問し、教会や園舎に被害がありました。その中で自主避難所として働きをされた経過を、釜土達雄牧師よりお聞きしました。また、当初の教団や教区の対応について、考えるべき課題が示されました。何より心に残ったのは、「壊れたのは建物だけではなく、人の生活」という釜土牧師の言葉でした。まず建物の被害に目が向きますが、教会が立つ地域への深刻な地震の影響を、認識する必要があると思われました。

三日目は、北陸学院を訪問しました。今後、ボランティア派遣等を検討していく場合に、北陸学院との協力関係の重要性を受け止めました。

3月11日から13日、副議長、総幹事、社会委員長、書記が参加（議長は葬儀のため不参加）し、能登半島地震被災教会を訪問しました。また、中部教区の現地委員会委員の方々が同行してください、移動の責任を負ってくださいました。

一日目は、羽咋教会と富来伝道所を訪問し、内城恵牧師と役員の方々の

その後、輪島教会を訪問し、新藤豪牧師とお会いしました。輪島教会の会堂は大きな被害を受け使用不可能になっており、牧師館も今後の対応が必要となります。その中で、新藤牧師は、避難先から戻る教会員と礼拝を捧げられる体制を考えたいと話されました。輪島は、町の被害も大きく、輪島教会の伝道の再建の道筋は、長いものになるとの思いを強く与えられました。

（黒田若雄報）

2023年度

宣教方策会議

「日本基督教団の未来のために～機構改定で出来ること」

雲然俊美議長が主題講演

3月4～5日、教団会議室およびオンラインで宣教方策会議が行われた。教団四役、委員会・教区・神学校・関係団体からの参加者等74名(対面49名、オンライン25名)が参加した他、常議員の有志もオンラインで参加した。

雲然俊美議長が「日本基督教団の未来のために～機構改定で出来ること」と題して、主題講演を行った。冒頭、雲然議長は、「この講演の目的は、学ぶということもさることながら、皆で協議することが主目的である」と始め、以下のように語った。

主題について2名が発題

一日目の夜のセッションでは菅原力教師養成制度検討委員長が「教会をたてるために」と題し、小林克哉宣教委が「教会を強めるために」と題してそれぞれ発題を行った。なおこれらのテーマは宣教委が提示したものである。

菅原委員長は自身の教師養成制度検討委員としての働き、日本基督教団の教師論の策定に携わった経緯を振り返った。その上で、教会をたてるために日本基督教団という教会が聖なる公同の教会だと受け止めることが不可欠だと述べた。教団や教会の経緯にも触れ、「聖なる公同の教会を信ず(使徒信条)」とが教団の根本、それは破れもある地上の教会を

公同の教会と信じていること、見えない公同の教会を見える教会として形成することで「聖言を成しとげること」を志す(「教憲前文」)ことへ我々は召されていること、その使命に仕えるのが教団の教師であること等が語られた。

小林委員の発題ではまず教団機構改定について財政面ばかりピックアップされる現状があるとして、教会を強めるにはお金ではなく御言葉と聖霊の力が不可欠というところから始めなくてはならないと述べた。また信仰告白を共にできなかったり未受洗者陪餐を行ったりしている教会の存在が、教会が強くなることを妨げ地域的な互助や伝道協力の意欲を削ぐ要因になっていると指摘。教団の分裂の現実を認めて悔い改めなければならぬと訴えた。その上で教会が強くなるためには機

構改定案(2020年)にこだわらず、教区の垣根を払った「見える関係」での互助や伝道協力の構築、それぞれの地の礼拝共同体を守るために「一教会一牧師」「一教会一役員会」「一法人一教会」の前提から自由になること等を提案。また教会を教会たらしめる御言葉と聖礼典にあたる教師が生き活きとして働くことが信徒を慰め、求道者を救い、教会を強くすることも述べた。

「信託を基盤とする時、信仰告白の拘束性をどう受け止めるのか」との問いかけがあった。機構改定については、「68年の機構改正の総括なしにはできない」、「議論が後戻りし、結局実らないことへの確認から始められる。一体である教会としての日本基督教団は、機構の改定によって、各個教会の伝道推進や、伝道協力に資する教会として整えられる。」

二日目に分団・全体協議

二日目、対面6グループ、オンライン3グループに分かれての分団協議の後、全体協議では各分団からの報告を聞いた。教団の一体性、信仰告白を巡っては、「信頼し合うためには、どこに立つのかを確認しなければならぬ」との意見、「信仰告白を基盤とする時、信仰告白の拘束性をどう受け止めるのか」との問いかけがあった。機構改定については、「68年の機構改正の総括なしにはできない」、「議論が後戻りし、結局実らないことへの確認から始められる。一体である教会としての日本基督教団は、機構の改定によって、各個教会の伝道推進や、伝道協力に資する教会として整えられる。」

教団の在り様を脱すべし」等の意見があった。また、「会堂を建てることとが伝道方策の第一」との意見がある一方、「何が何でも会堂を維持しなければ」という姿勢から脱すべき」との意見もあった。宣教方策会議の在り

方については、「各地域の取り組みが聞ければよかった」、「多様な参加者を求めるべき」、「沖繩が距離を置く中で教団のことを協議する姿勢に抗議する」等。

分団の報告を踏まえて、様々な意見が出された。「当初、総会議員の半減等が議論されていたが、後に、一体性の確認に舵を切った背景を言葉

で表現して欲しい」、「教団は何を残すかが重要、機構を考えるだけでなく、御言葉を伝えるという根本が問われており、教師を支えて行くことは大切な課題」、「各地における伝道の拠点である教会を孤立させないための機構改定をやって行くというメッセージを発することが大事」等。

新報5016号2面「神奈川教区総会報告」タイトル「150回」を「152回」に、「2024教区総会日」欄、東京教区の開始時刻を「10時30分」に、終了時刻を「19時」に、お詫びして訂正いたします。



左から菅原教師養成制度検討委員長、小林宣教委

とである。常議員会は、議案「日本基督教団の一体性を確認する件」を可決し、教団総会に提案する。規模と体力に見合った教団の運営のために、財政、諸活動の適正化によって、伝道に集中する体制を構築していきたい。

講演後、「今回の機構改定は、40総会期以降論じられている機構改定のことなのか」という質問に対し「現常議員会では、踏まえてはいるが、2018年に出された教団機構改定案骨子には基づかないということ議論している」と議長が答え、「仕切り直した上で体制を整える」と時間を要すると思うがどう考えるか」という問いに対し、「財務関係は切り離し、委員会の活動の適正化等出来ることを進めていってはどうかと個人的には考えている」と答えた。

(小林信人報)

台湾地震緊急救援募金のお願い
主の御名を讃美いたします。
4月3日、台湾東部を中心に、マグニチュード7.2の地震が発生し、最大震度6強を観測した花蓮県を中心に、多くの被害が報告されています。台湾基督長老教会に属する玉山神学院の建物をはじめ、複数の教会の建物に被害が生じたほか、教会員にも死者・負傷者が出ています。社会委員会では、緊急救援募金を開始しましたので、祈りをもってご協力をいただきますようお願い申し上げます。
2024年4月12日
日本基督教団社会委員会委員長 柳谷知之

◎募金期間 特に定めず
◎目標額 特に定めず
◎送金先 加入者名 日本基督教団社会委員会
◎郵便振替 00150-2-593699
(通信欄に「台湾地震緊急救援募金」とお書きください)。〒169-0051東京都新宿区西早稲田2-3-18-31、日本基督教団社会委員会(電話03-3202-0544、Mail shakai-c@uccj.org)

24年2月17日逝去、60歳。神奈川県生まれ。09

23年1月15日逝去、90歳。岡山県生まれ。57年関西学院大学大学院修了、同年より八尾教会を85年まで牧会。遺族は妻・田主靖子さん。

24年2月29日逝去、94歳。大阪府生まれ。57年東京神学大学大学院修了、58年より本宮教会を牧会し、20年隠退。遺族は息・安井徹さん。宮越文次郎(隠退教師)

田主忠信(無任所教師)
年日本聖書神学校卒業、同年より14年までひの木教会を牧会。遺族は父・石井勇さん。

安井 潤(隠退教師)
就(主)関口 康
就(主)秋場治憲
就(主)秋場治憲
足立梅田(主)高橋陽一
濱北 就(代)松田 伸
日本基督教団
就(主)大島義孝
伝道所廃止
藤沢ベテル

教師異動
昭島 辞(主)関口 康
〃 辞(担)秋場治憲
〃 就(主)秋場治憲
足立梅田(主)高橋陽一
濱北 就(代)松田 伸
日本基督教団
就(主)大島義孝
伝道所廃止
藤沢ベテル

教師検定委員会よりお知らせ
「教師検定試験受験の手引き」を改訂しました。情報を刷新し、新たな節を加えるなど増頁し、頒布価格も220円に変更しました。
問い合わせは、電話03-3202-0546、教師検定委員会までお願いします。

事務局報
年日本聖書神学校卒業、同年より14年までひの木教会を牧会。遺族は父・石井勇さん。

お詫び・訂正
新報5016号2面「神奈川教区総会報告」タイトル「150回」を「152回」に、「2024教区総会日」欄、東京教区の開始時刻を「10時30分」に、終了時刻を「19時」に、お詫びして訂正いたします。

伝 道 報 告

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」 ルカによる福音書第10章17節～20節



伝道推進室より応援した教会・伝道所

主の栄光のために

津久見教会牧師 野口 春夫



上：宮山の崖縁の会堂
下：主任・担任教師

昨年創立70周年になる津久見の伝道開始は1927年であるが、戦前、男性は戦死、女性は病死で数名に、教会は消滅状態だった。敗戦後、救世軍の故恩村吉重兄が教団に移り、再建を始めた。国鉄(当時)津久見駅前で年末に「慈善鍋」が置かれ、楽器が奏でられている写真が津久見市の歴史資料にある。

1953年教団は教会を認可、教区は津久見を「特別開拓伝道地」に指定、借家料を保証した。1966年曰杵教会との兼牧を解消、鈴木(旧姓原田)恭子牧師を迎え、8名で新教会が設立した。牧師は朝起きると、部屋を礼拝堂に変えた。警察署の柔・剣道場跡を買取、会堂建築を始めた。地元

3年に編入、4年で教師試験に合格、専攻科在学中に故東島勇氣議長より招聘の話があり、2003年6月に赴任し土曜日曰杵教会保育園に宿泊し聖日に津久見で、CS、公同の礼拝を終え、福岡に戻る生活だった。議長に「謝儀はない、互助も5年間は」と言われたが、神学部で「教会に招かれたら一度は行こう」と申し合わせたので守った。教会には、無届の建物、部屋には「陶芸寮」が設置され、数年後に除去して頂いた。就任式後、少し謝儀が出始めたが、今も額は殆ど変わらない。教会員原簿不明のまま、夫婦で教会を知ってもらうために案内レジャーを配りポストも貼って行った。ポスト貼り4年目に、「屋外広告

物条例」違反で教会の隣は署長宅だが警察に捕まるというエピソードもある。クリスマスに招待状を入れた案内を配ると、CS生徒が増えた。その時、小6だった田中優至(まさみち)兄が今は教会の役員や大分地区青年部長である。赴任2年目に隣の佐伯教会の協力牧師となり聖研、代務者、今も協力牧師である。2010年に癌を患い、連れ合いが教師試験を受け始め、3年で合格、佐伯の主任と津久見の担任と兼牧で奉仕している。毎年1回は伝道礼拝をして、代田教会の平野克己牧師には、先方の費用で来て頂いた。私も同じ様に説教させて頂いたことがある。教会からは「この友」を50年程贈呈を受けて感謝している。

東日本大震災で被災し、保養で教会に宿泊し、海水浴等を楽しんだ小学生の一人「警察官になる」と宣言、今、警視庁の交番に立つ。「海上保安官になる」と宣言した一人は、大学で学んでいる。大友宗麟の像、公園、お墓、おまけに「宗麟音頭」まであるが、伝道は難しい所だ。2023年の5月に二人の会員が召天、現任陪餐会員は一人に。赴任時から物心両面で応援し支えて下さる高校生会時代の指導者氏原淳一兄(林間つきみ野教会)、全国の支援者、元同僚、出身教会関係者には、感謝に絶えない。エアコンが設置出来る電気配線、老朽化した礼拝堂の改築等課題を背負っている。21年前赴任した時の原忠に戻り、体が続く限り伝道し、今後の課題を担う牧師に引継ぎ出来るようにと二人で自覚している。自分の信仰の成長のために、多くの小教会のために、主の栄光のために。

部落解放ユースゼミナール

「長崎で会おう どこでもわたし」



「長崎で会おう どこでもわたし」と題し、2024年3月12～14日に部落解放ユースゼミナール(仮称※)を開催した。総勢16名の参加者が全国各地から会場・長崎銀屋町教会(長崎市)に集まり、二泊三日のプログラムを行った。

基調講演とフィールドワークでは、阿南重幸さん(長崎人権研究所・副理事長)を講師に招いた。キリスト教禁制の時代に、長崎の被差別部落民が潜伏キリシタン捕縛を役目とされていたこと、そのような弾圧の手先とされた部落民にキリシタンが復讐のために夜襲し、被差別者同士の血

を流すような事件があったこと、しかし時代をさらに遡ると部落民もまたキリシタンであり、役目であった捕縛の任務を拒否した出来事があったことなどを伺った。また、フィールドワークでは原爆によって「消失」した部落の歴史を辿りながら、原爆投下当時とその後の様子を知った。平和公園内の平和祈念像が男神・巨人のモチーフ(固定化された性別・力による平和)であることの問題性や、「追悼長崎原爆朝鮮人犠牲者碑」を巡り日本の戦争加害性についても学んだ。

多くの歴史を知ったプログラムであった。しかし「知ってよかった」では済まされないものばかりであり、常に私自身が問われる思いのする数日間であった。部落差別、キリシタン差別、原爆差別、性別差別、レイシズム。現在まで続く差別が多くあり、歴史が現代の私に投げかけているものは多くあると感じた。誰もかが被差別の不安にかられることなく、「どこでもわたし」と生きられるような社会を日常から作り出したい。

※「青年ゼミナール」は2022年より「ユースゼミナール(仮称)」としています。「青年」という言葉の男性中心主義性に気付かされ、よりふさわしい名称を現在模索している段階です。

(片岡希望報)



主が備える一歩一歩を



神戸教会派遣神学生・世界宣教委員会エキュメニカル奨学金を受けて学ぶ

韓国・蔚山のキリスト者の家庭に生まれ、中学生の頃に受洗した金茶云さんは、高校卒業後、メソジスト神学大学(MTU)に進んだ。当初は清貧であるべきという牧師像に尻込みし、経済力を得られる職に就いた上で、役員として教会を支えることを考え、医師や教師の道も模索していた。しかし、祈りの中で、多くの人が進むとしない道で主に仕えるべきとの思いを与えられた。背後には、熱心な母の祈りもあったという。

大学院卒業後、伝道師を経て牧師となり、教会に仕える傍ら、延世大学の語学堂で日本人に韓国語を教えるボランティアに携わった。この経験から、韓国にいる日本

原忠雄を比較し、自国を愛しつつも、キリストの愛によって偏狭な民族主義を超えて行った信仰の在り方を研究する。その学びと、母国を離れてキリストの愛を証しして行く歩みが、再び、自国中心主義が強まる時代にあつて、日本と韓国の橋渡しをすることにつながることを考えている。これまでの歩みを振り返ると、改めて、自分の選択だけでは、現に在るようにはならなかったと語る金茶云さん。「人間の心は自分の道を計画する。主が一歩一歩を備えてくださる」(箴言16・9)との御言葉を受け止めている。

雨音に紛れて

雨音が聞こえるだけだった。3月11日より東日本大震災を思いつつ、3日間、富来伝道所、羽咋教会、七尾教会、輪島教会、北陸学院の順に問安した。冒頭の様子は輪島の朝市。静けさの中で、共に歩く教団関係者の様々な思いは祈りによってこれから一つとされるだろう。

射撃とは短い祈りで文字通り矢を射るように祈るもの。「主よ、憐れんでください」とか「主よ」の一言にも神さまに依り頼む深い思いが込められる。以前お仕えた教会でどう

ても献金の祈りが苦手という方がいて、教会学校の子どもにもそうしたように聖句の書かれた葉の裏に祈りの言葉を書いてそれを読んでもらったことがある。それでも吐き出した息に込められた何かを、主なる神さまは余すところなくすくい取って持ち帰ってくださる。嘆きは地に捨てられることなく、聞きあげられる。その時点で既に救われていることを信じて、雨音に紛れる祈りを生きているとされた。

(教団総幹事 網中彰子)